

の 様 の お ウ チ に 生 ま れ た 、 ほ と け の 子

この冊子は子育てをされている親ごさんに読んでほしいという願いを込めて書いたものです。また、ご自分の人生をたずねたいと考えていらっしゃる方へお届けできたらと願っています。

このささやかな贈りものによって、生きる勇気がわき、ココロの支えになればと願っています。



まずはふたつの物語をお伝えしてはじめることにします。

＊子猫が教えてくれた物語

夕暮れどき、しずかちゃんはおウチへの帰り道を歩いでいました。

すると、生まれて間もない子猫が道端で息も絶えそうにうずくまっているのを見ました。

しずかちゃんは、帰りを急いでいたので通りすぎよう

としたのですが、なぜか通りすぎる事ができません。

子猫を見守るうちに時間がどんどん過ぎていきました。すっかり暗くなつた道端で、子猫はしずかちゃんのあたたかい両手に包まれて、精一杯、一息一息呼吸をしています。しかし、だんだん息が弱くなり、静かな息をしながら眠ってしまいました。

しずかちゃんは子猫の最後の一息を見守ることにしようとして、手のひらにやさしく子猫を抱いておウチに帰りました。子猫がコンクリートの道端で彷徨いながら生きてきた「あかし」でしょうか。子猫のからだは泥とホコリ

